

2022年6月30日

高等教育キーパーソン 各位

学士課程教育の原点を拓く ――  
**教学マネジメントの検証と深化シナリオ**  
～ 昨今の教学のあれこれ／全国的な概況／諸々の課題解決へ ～  
【7月29日（金）開催】  
ご参画・ご派遣のお願い

ご健勝のことと拝します。

さて、半田 智久氏を講師に、教学マネジメントの深化に関わるワンマンセミナーを開催いたします。

半田氏からは先鋭的かつ軽快なメッセージをいただきました。同氏の近況とともにご高覧願います。

本年1月から3月にかけて、全国の大学に教学関連の代表的な課題の現況についてアンケート調査を実施した。学修者本位の教学・教学マネジメント・内部質保証などに関連して、どの大学でも共通してなすべきこととされているらしいことの実際のありようを尋ねた。そしていま現場で抱えている課題についての声を聞き、まとめ、それを大学間で共有しようと思ったのだ。本日はこの場をお借りして、その結果をみながら目的の一端を果たそうと思う。

それらを眺めると、各大学で共通して抱えている課題の多くは、思いのほか簡単に解決可能であったり、解釈をあらたにすることで解消するであろうことも見通せた。それらについても紹介しつつ、参加者のみなさんと具体的に歩みが踏み出せる方向へと相互に理解を深める時間にしたい。

わたしはこれまでICTを利した有効性の高いwebサーベイの手法を確立してきたひとりと自負している。

だが、今般のアンケート調査は思うところあって、久々に昔ながらの質問紙を作成し、郵送留め置きで配布・回収し、手作業で回答もみずから入力し、まとめた。

それら著しく手のかかる作業をあえてしながら、心ならずもこの種の調査を随分としつつけてきた人生だったなどと振り返った。その非効率きわまりない手作業に時間を費やしつつ、そのとき訪れる気が遠くなるような疲労感に、ここ最近失っていた生物的なテンポやリズムの快を感じ取っていた。さまざまに手書きされた回答と向き合っていると、しばらく遠のいていた身体行為のリズムにも感じ入ることができた。

その余韻のままに、この今回の会でもICTによる便利といわれるその便の利というところが、わたしにはどうも上っ滑りの利と思いなすことばかりに思えることから、そうしたコミュニケーションの方法は、あえてお断りさせていただくことにした。ここではお手軽に済ませられるようなことがらを扱うつもりはないし、そのように向き流すこともしたくないからである。  
(半田 智久)

パンフレット版（PDFファイルです）は下記よりご高覧願います。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/220729.pdf>